

と、心配でたまりません。



〽全部抜く、〽

でも、少し高い所に田んぼがある
弥平さんは、

弥平「ああ、よかった。こんなに雨が降っているのに、うちの田んぼでは水の被害が少なくて助かった。何とかお米もとれそうだ。」
と思ひ、安心してにこにこしました。

④ 村々の田んぼを見て回った与右衛門さんは、おどろきました。

与右衛門「これはかなりの被害が出そうだ。困ったことになったぞ。」
そこでお城のご家老のところへ相談に行きました。

与右衛門「ご家老様、今年の稲はよくできて、たくさん米がとれると思っていました。しかし、この間から続く大雨で多くの田んぼで稲穂が水につかり、このままでは、

年貢米も農民が食べる物もとれなくなるかもしれない。」

家老「うーん、心配していたがやはりそうか。年貢米も重要だが、農民の食べる物がないと、もっと大変だ。」

与右衛門「はい、そこで困っている農民には、『奉行所に相談に来るように』と、おふれを出したいと思ひます。よろしいでしょうか。」
家老「よからう。農民の話をしっかり聞いてやりなさい。」



⑤ そこでさつそく、与右衛門さんは、おふれ書を村々の中に立て、農民たちに知らせました。

『今年は雨の被害が大きく、お米のとれる量が少なくなりそうなので、年貢について話がしたい人は、奉行所へ相談に来るように。』

おふれ書きを見た農民たちは話合っています。

壮助「嘉助さん、相談に行ったら、

本当に話を聞いてもらえるのかなあ。」

嘉助「壮助さん、それはわからないけど、みんなで行ってみようよ。」
そこで、みんなで行って奉行所へ出かけました。



⑥ 嘉助さんや弥平さん達が奉行所へ行くと、与右衛門さんが、みんなの顔を見回しながら心配そうに言いました。

与右衛門「みんながせっかく心を込めて作っている田んぼが、長く降り続く大雨で大変なことになっていますね。とても心配なことだ。」
太吉「お奉行さま、そうなんです。どうなるんでしょうか。」

嘉助「それで私たちも、ご相談に来

たのです。」

与右衛門「わかりました。それでは、みなさんの田んぼの様子は今、どうなっているか、聞かせてください。」



⑦ 嘉助さんは、頭を地面につけて、与右衛門さんに訴えました。

嘉助「お奉行さま、私の田んぼでは、元気な稲穂がたくさん出て、『今年は豊作になりそうだ。』と喜んでいましたが、この大雨でどつぷりと水につかりました。たおれている稲もたくさんあります。これでは、どれだけお米がとれるかわかりません。このままでは、お城に出す年貢の米も、私たち家族が食べる物もありません。どうか、年貢を少なくしてもらえようようにお願いします。」

与右衛門さんは、涙をこらえなが